







権現堂 鬼面

権現堂の神殿正面柱に掛けられていた鬼面。四面のうち一面は盗難にあい、現存しているのは三面である。全体は赤色。眉・目玉は黒色。歯・白目は白色に塗り分けられている。開口と閉口で陰陽を象った四つの鬼面は、四箇字を象徴し、東から登野城・大川・石垣・新川の郷に掛けられていたという。



波照間島前村の弥勒面

Maitreya mask of Mao village, Hatorama island.

八重山では旧暦6月の豊年祭、9・10月の結願祭、節祭、竹藪祭では種子取祭などの祭に弥勒(ミルク)が現れる。常世国(ニライカナイ)から毎夕に五穀豊穡をもたらす豊耕の神と仰ぎ、弥勒によってもたらされた穀物の実りや豊かな生活を「弥勒世・弥勒世果報(ミルクユカフ)」といっている。

波照間島では旧暦7月14日、祖先供養と豊穡感謝・祈願を行う稲穂大の祭「ムシャーマ」に弥勒が現れる。









西表島納取村の獅子頭

Lion mask of Amtoi village, Homote island.

納取村では昔年祭や節祭の際に獅子舞が演じられた。この獅子頭は大
川村の大沢宮貫氏が1868(明治21)年に造った獅子頭で、他に豊川村、
崎山村の獅子頭もあったといわれる。裏には糊塗の液があるが、これは
3ヶ村の獅子頭が出来上がった時、獅子舞の指導中に他の2頭と揉み合
わって塗が欠けてしまい、その時に宮貫氏が補修したとされる。
又、一部によると納取、豊川村は雄獅子で、崎山村の雄獅子を奪い取っ
て実況して欠けたとも言われる。納取村は1971(昭和46)年滅亡。



四 つ 幡

葬列の時に使った弔旗である。「佛諸行無常」「法是生滅法」「僧生滅滅已」「寶寂滅為樂」の文字が書かれている。四流旗ともいう。













